

侵食防止シートの適用範囲

- 植物が生育できる場所への適用
- 地面と流水がほぼ平行な流れ場である場所への適用
- 侵食防止シート敷設範囲より上流側の範囲においても何らかの侵食防止措置が行われている、または行える場所への適用
- 水面勾配が1/300以下の場所への適用

侵食防止シートの適用に際し、留意する点

- シートと地盤面に隙間が生じると、隙間部で高流速の流れが発生し、侵食される危険性があります。シート内部には完全に土砂を充填する必要があります。
- 例えば植物があまり生育・定着しない出水頻度の高い場所や平水時でも水面以下となるような場所、河床表層の主構成材が礫である場所など、シートの露出頻度の高い場所への適用は控えてください。
- シートは土中に埋設しているため、露出していなければ簡単には燃焼しません。ただし、高熱が加わり続けることで劣化が生じる恐れがあります。シートを敷設した地面上での焼きシバや集草焼却などといった燃焼を行うことは控えてください。

レビーガードの構造

品番	厚さ(mm)	幅(m)	長さ(m)	目付(g/m ²)	主素材
LG-25-S	28.4	2	10	1465.5	PE+PET

「植生の耐侵食機能を活用した侵食防止シートの開発に関する共同研究報告書」及び「レビーガード性能評価報告書」に記載されているレビーガードの構造の試験結果は上記の通りです。